

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2017/9/9 実施)～

参加人数: 7名

秋がきた!

満開のアベリアの花にナミアゲハが 2 頭、小型だが模様がとても鮮やかだ。他にキタテハ、イチモンジセセリ、アカホシゴマダラ、ヤマトシジミなどが集まっていた。園路を進むと土の上に、黒いチョウが留まっている。ナガサキアゲハか。水を飲むならもって池のそばのほうがたっぷり飲めるだろうに、何をしているのか?



地面の上にとまったナガサキアゲハ



カワラスガナ

同じく通路のコンクリート板の脇にカヤツリグサの仲間がいくつか顔をだしている。人が歩く所なので、これから先増えていくかどうかはわからないが、コンクリート板にめげず伸びている。草のエネルギー、頼もしさを感じる。その場ではこれはヌマガヤツリではないか?と話をしていたが、後で、これはカワラスガナだと訂正がはいった。なるほど。

湿地の中のアシの茂みが少し刈り取られた場所で、アカバナとヒメサルダヒコがそれぞれ小さな花をつけているのが数本見つかった。これらは昨年見つけた場所から離れており、「歩いた」わけではないが勝手に移動している。草それぞれに事情があるのだろうが継続して観察していると、思わぬ発見に出会うこともあり、楽しみの一つになっている。



シロバナサクラタデを訪れたベニシジミ



可憐な花をつけるポントクタデ

田んぼの稲は重たく実って、秋がきた!ソクズ、ジュズダマ、ヤブミョウガ、アメリカイヌホウズキなども花とともにしっかり実がついていた。キレハノブドウにも実。咲きはじめてシロバナサクラタデに負けじとツルマメも花を咲かせている。その中に 2, 3 本ポントクタデが可憐な様子で咲いていた。ポントクはシロバナサクラタデに負けてしまいそう?イヤイヤ別の場所にありました。ここではまだ花は咲いていなかったけれど。そばには黄色い小花のチョウジタデも見られた。

畦にはハシカグサの小さな白い花も咲いていた。コブナグサの穂はまだ出ていないが、しっかりと丈をのぼし秋の風に穂を揺らす準備をしているようす。オオイヌタデも白い花のものと赤いもののがそれぞれ以前より増えたようだ。タカサブロウの花は今が盛り、ミゾソバはピンクの花がチラホラ咲き始めた。川側にはキンエノコログサが沢山見られ、ヒメジソも花はまだだが、びっしりと広がっていた。



目立たないけどしっかり咲いているハシカグサ



樹木のアカメガシワは重そうな実をつけていた。カラスザンショウ、ヌルデには、白っぽい花が見られた。遠くからでもよくわかる。コブシは葉の間にビロード状の花芽がついていた。もう春の準備か、早いなあ。

←重たそうなアカメガシワの実

山側の藪下にはオオカマキリ、ハラビロカマキリがそれぞれ待機してエモノを狙っている。アッ！オオカマキリが獲物を取りそこねた。命拾いしたのは、シロヘリクチブトカメムシだ。カメムシの仲間は図鑑を見るとびっくりするほどたくさんいるのに驚く。

オオカマキリ→



根木内観察会で初記録のシマヘビ

草むらではオンブバッタやショウリョウバッタ、ツチイナゴ、クビキリギスなどが飛び交っていた。そしてへびもお出ましになった。1匹、アオダイショウらしきものは草むらにすぐ消えたが、もう1匹は草の上からこちらに顔を向けてしっとうしている。衣装は赤と黒の縞模様。根木内観察会では始めて登場のシマヘビだ。

ハンノキ島のあたりではシオカラトンボが乱舞しており、ショウジョウトンボも先月に続いて確認できた。ギンヤンマも2頭がつながってとんで、アシの間に消えた。

今日は3歳の文ちゃんも参加して、お父さんと一緒に虫取りをした。



シオカラトンボより色が濃いオオシオカラトンボ



産卵中のギンヤンマ



田んぼの稲は重たく実って、秋がきた！

10月の湿地の観察会は、、、

10月28日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。